

入選

ばんそうこうのまほう

栃木県 吹上小学校

四年 飯田 茉那香

去年の持久走大会でのことです。

「あっ、いたたた！」

と声が出たので、ふり向くと、クラスの友だちが転んで足をすりむいていました。するとすぐに、近くの友だちが、転んだ子にばんそうこうをあげて手当てをしていました。友だちがふだんからばんそうこうを持ち歩いていることや、そのやさしい行動におどろくと同時に、かっこいいなと思いました。それからわたしも、自分のためだけでなく、だれかが困ったときに役に立ちたいと思い、出かけるときはばんそうこうを持つようになりました。

ある日のこと、登校中に、

「あっ、いたい！」

と前から声が出ました。1年生が転んでしまったのです。足から血が出て、痛そうでした。はん長が、

「だれか、ばんそうこう持ってる？」

と言ったので、「わたし、持ってます。」と言って、ティッシュで軽くふいてから、ばんそうこうをはってあげました。そのあとはん長が、

「まだ、ばいきんがついているかもしれないから、学校に着いたら保健室で、みてもらおうね。」

と1年生にやさしく言い、わたしには「どうもありがとう。たすかったよ。」と言いました。わたしは、自分のばんそうこうのおかげで、1年生が元気になったことや、みんなの役に立てたことがうれしくて、学校までの足取りが軽くなりました。ばんそうこうには、まほうの力があると思いました。

先日、テレビで「それぞれの肌の色に合わせたばんそうこうが売り出された」というニュースを見ました。日本ではあまり気にしなかったけれど、外国では肌の色によって、差別をすることがあり、人権問題になっているそうです。黒人の男の人がばんそうこうをはって、なみだを流してよろこんでいました。自分の肌に合ったばんそうこうは、きず口を目立たなくしてくれるだけでなく、差別という心のきずも治してくれるような気がしました。ニュースのキャスターが、

「小さなことですが、これがそれぞれの人を認めあう社会への一歩につながるのです。」

と言っていました。わたしはまた、ばんそうこうのまほうを見つけました。

ばんそうこうは、けがをしたところをおおうだけでなく、痛かったりつらかったりしたことで、きずついた心をやさしくおおってくれるようです。もし、いやな気持ちをしている人がいたら、やさしく声をかけ、心に「思いやり」というばんそうこうをはってあげたいと思います。

わたしのバックには、かわいいばんそうこうと、心には「思いやり」というやさしいばんそうこうをいつも用意しておきたいです。そして、こまっている人やきずついている人を、やさしく治してあげたいと思います。